

令和三年度 前期日程 入学者選抜学力検査問題
国語 解答例

一

問一 ①さかのぼ(った) ②俗名 ③こ(う) ④たぐ(って) ⑤にな(って)

⑥鎮座 ⑦解脱 ⑧即応 ⑨あらわ(された) ⑩膨張

問二 X ウ Y ア Z イ

問三 過去を分析することによって、現代人とは価値観や常識のまったく異なる世界に出会うことができるということ。

問四 (1) 日本人というだけで無条件に援助してくれる仏がいるのなら、なぜ異国にわたってまで仏を求める必要があるのかという疑問。

(2) 姿形をまたず、衆生を生死を超えた救済に導く普遍的な存在としての仏のほかに、具体的な形を与えられた仏像としての仏が中世にはあり、その仏が日本人を無条件に守護し、人々を彼岸の仏に結縁させる存在であった。(99字)
人間がカミと同じ空間を共有し、現世の内部で完結する一元的な世界観から、カミに対する思弁が深化するにつれて、神の存在感が増大するとともに現世から分離し、究極の救済者が住む真実の理想世界と、そこに到達するための仮の世である現世からなる、二元的な世界観へと変わったこと。(132字)

二

問一 ア あれこれと支度をして イ 風流な人 ウ ほしがるので

エ 縁があつて(縁談があつて、結婚してしまつて) オ 騒々しい

問二 有名な歌枕や名所は、はっきりと目に見えるものはなくなつていても、その跡に立つて往事を思い起こすところこそ風流なのだ、という気持ち。

問三 詩や歌

問四 業平が通りすぎることでできずに眺めなざつたところなので、後の世の記念にしようと作られたのかと思われる。

三

問一 a すなわち b こたう(こたえる) c なんじ d しかれども e おおし

問二 一人で碁を打っているから。

問三 (1) わがこうをおどろかすことなかれこれにあらざればなにをもつてしようけんせんや(と)。

(2) 黄在龍は争いをせず、人助けを好むので、賊にも尊敬されていたから。

問四 昼も夜も考えていたこと、手ぶりしていたことは、両軍の間でのことでないものはなかった(すべて戦いのことであった)。

問五 (1) どくえきにあらざしてなんぞや。

(2) 碁は戦鬪と通じるものである。諸葛亮は一人でじつと戦鬪のことを考えてシミュレーションを行っていた。これは一人で碁を打つことと同じであるから。